

「今年の抱負」



片山 孝子
豊原

新年あけましておめでとうございます。

今年は2000年、辰年。

記念すべき年、嬉しいですね。年がいもなく張り切っています。

夢夢、私に羽根がはえて飛んで世界旅行が実現できるといいなあ！

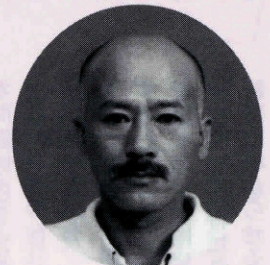
お友達80才にしてシンガポール旅行、孫高校1年生ホームステイでアメリカ行き。パスポート取って、老いも若きも海外旅行、時代が変りましたね。

私も惚けてはおられません。皆様のお世話になるだけかからぬ様気をつけたいと思います。結婚当初より付けている、日記兼家計簿を付け通す事は大変な事です。

一生懸命生涯つけ続け、夢を見つづけ惚けない様したいと願っております。

今年も良い年であります様、祈って居ります。

「やっと半人前」



井上 篤
津雲

えーまさか 本当かよ…。

昨年町民グラウンドで開催された陸上教室の出来事である。グラウンド一周回ったところで、「動悸、息切れ、膝が笑う」。中高時代の陸上部のプライドがズタズタにされた一瞬だった。女房には「とうさん無理せんで年なんだから。」

そう、12×4 中年ど真中。学生時代は節目々々「入学・卒業・就職」が有り目標も立ち易かったのですが。

気がつけば子供達は親を追い越し、並ぼうとしています。彼らはこんなに成長しているのに、そういえば最近無難に、ただぼんやりと安全運転をしてきた気がする。

今年は辰年、節目の年として、自分にこだわり、職場、家庭、地域、そしてわが三隅町、青年団時代の「生涯教育」とやらを思い出し、前向きな姿勢で取り組んでいきたい。

頭は常に刺激を求めて。

体はほどほどに痛めて。

「健康に合掌」



佐々木 得三
小島

新年あけまして

おめでとうございます。

毎年お正月には、近くの神社に参拝して「今年も健康で楽しい一年を過ごせますように…」と月並みのお祈りをしますが、今年は還暦を無事迎えられたことへのお礼も追加です。

「天国へ出せぬ数だけ減る賀状」昨年の暮、青森の友人の奥さんから喪中の葉書、友人が10月に亡くなったとか…。

近年、毎年のように知人・友人の悲報に接するにつけ、自分もこの年代に入ったかと一抹の不安を感じ、健康の有難さ大切さを痛感しております。

健康は宝だ、元気であれば何にでも挑戦出来る。幸いにして三隅町は、各種健康診断等、他市町村と比較して充実しているので心強いかぎりである。

私も一新紀元を迎え、悔いのない人生を送るため、健康第一に自分に出来る事は何かのかを、しっかり分析し、微力ながら地域社会の為に役立ちたいと思っております。

「節目の年に 思うこと」



岡本 信子
湯免

今年は還暦、節目の年、改めて自分の生き方を考えなければ。

私は5才から20才まで三隅の地に育ち、30年前に再び住むようになりました。あの頃、春には菜の花や、れんげの花が辺り一面に咲きみだれ、まだ小さかった私の子ども達も、そんな田んぼの中を友達と駆け回っていました。あの頃の光景を今でも忘れません。そして地域の人々の温かい心も。今は、遠くに住む子ども達もこんなふる里をいつまでも忘れないでしょう。

急速に迫りくる高齢化、少子化など激動する日本社会、それを担う子ども達に心豊かな環境作りがされるならば、私もお手伝いしたい。

今“福祉の町”づくりに少しでもお手伝いできればと“どんぐりの会”に入れていただき、少しばかりの活動していますが、人と人とのふれ合いを大切に、生き甲斐になることを第一と考えたい、そして、生きている限り、心身ともに健康でありたいと願っています。